

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

圏域人口:72,731人
高齢者人口:16,978人
高齢化率:23.3%

豊中市で高齢者人口が最も多い圏域です。一部若年層の多い地域もあり、地域によって課題に差が見られています。公共交通機関・医療機関・商業施設など生活に必要な資源が豊富な地域と乏しい地域の差が大きいのが特徴です。

北部では坂が非常に多い住宅地に高齢者のみでの生活世帯が増えています。歩行状態が悪くなると外出困難から閉じこもりの生活になりやすくなる高齢者が多くみられます。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

「連携」を基本とし、高齢者ご本人、ご家族、地域住民、介護従事者、医療関係者などのネットワーク構築に努めています。総合相談を基本に高齢部会、地域教室、ケアマネ勉強会など情報提供や情報発信をする場を設け、地域での課題を発見し、地域資源作りができるような連携を意識して活動していきます。

【特に力を入れて活動している点】

- ①「蛍池カフェマップ」作成
- ②地域ケア個別会議の開催

【活動の中での課題やその解決策】

①について

【課題】

カフェマップそのものが地域資源として活用されるものなのかという視点から議論していきました。実際に地域のカフェや喫茶店に理解や協力がもらえるのかも課題でした。

【解決策】

蛍池校区においてカフェや喫茶店が高齢者の集う場として実態調査を実施。活動の目的や方針について説明し理解を得て、多数のお店にご協力をいただきました。

②について

【課題】

新しい試みの中、居宅ケアマネジャーからの事例提供が困難であることが予測されました。また、包括職員として司会・ファシリテーター役を担うことの重責や助言者の確保など課題は多く見られました。

【解決策】

豊中市の指導、共助のもと、助言者の準備などに支援して頂き地域ケア個別会議の開催、運営ができました。司会・ファシリテーターの研修やケア会議の参加、見学などを通して司会・ファシリテーターの役割を担う事ができています。居宅ケアマネジャーには地域ケア個別会議について周知され、事例提供についても理解を得ることができています。

総評

高齢者虐待防止について、独自のチラシを作成するなど、積極的に啓発を行っています。
また、前回の外部評価の内容を踏まえ、配架資料の整理がされ、記録の書き方も改善されていますが、記録を全職員で情報共有したことが確認できるような工夫が望まれます。

好事例

「つぶやきシート」を活用し、通いの場を増やすアプローチを進めています。また、日々の活動の気づきから、地域アセスメントを行い「カフェマップ」を作成するなど、高齢者が集まる場所を主眼に置いた取り組みを行っています。